

<p>会報</p> <p>第55号</p>	<p>Mt. I w a k i Conservation Association</p> <p>岩木山を考える</p>	<p>2011年9月16日発行</p> <p>岩木山を考える会</p> <p>会長 阿部 東</p>
-----------------------	---	--

* 岩木山講座のこれからの日程 *

秋も深まり、皆さんいかがお過ごしですか。

4回～5回目の岩木山講座を御案内します。是非、日程を空けご参加下さい。

④10/23 大石神社・巖鬼山神社・鬼神社などの神社巡り

岩木山信仰の原点は、岩木山の北東側に求められるようです。大和朝廷が北の民を滅ぼしたあとには日本書紀や古事記に記される神々の地域との結合をはかり、神々を共有することにより支配を強めたと考えられ、その流れがやがては藩政における百沢寺信仰へと引き継がれます。百沢の岩木山神社と赤倉はそれぞれ今後別々に取り上げることにし、岩木山信仰の原点にあたる巖鬼山神社、大石神社、鬼神社について何よりもその位置、現代のたたずまいをしっかりと見学したいと考えます。

日時 10月23日(日)AM10:00～15:00

集合場所 コープ青森・和徳店 10:00

持ち物 雨具・昼食持参・防寒は各自工夫して下さい。

参加費 800円(資料代・保険代・バス代込み)

責任者 阿部 東 申し込み0172-36-4205

申込み締切日 10月7日(金)

⑤12/9 座学「岩木山のクジラ化石」

1990年岩木山湯段温泉を流れる湯段沢の下流、中村川の支流でクジラの化石が発見され、県立郷土館を中心に発掘が行われた。佐藤先生はその時、発掘に直接かかわられ、その後大石先生と共にクジラを学会に発表(1991)された方である。

クジラとはどういう動物だろう。イワキサンクジラはどのような動物だろう。というクジラ化石を中心にお話を頂きながら、化石は？地層とは？など地球の歴史を知る手掛かりについてお話を頂くことと思う。

日時 12月9日(金)18:30～20:30

場所 弘前市民参画センター

講師 佐藤 巧氏 県立郷土館調査員、平賀町立菖蒲川小中学校校長

10/29 に予定していたシンポジウム「岩木山の湧水と生物多様性」は、諸般の事情により、中止となりました。

但し、来年の2～3月に新しい企画を予定しています。その案内は次号会報でご案内します。

<関連イベント告知>

弥生ネット主催「弥生跡地観察会報告集会」

弥生スキー場跡地を未来への贈り物に！ここまで回復！報告集会

岩木山を考える会も、構成団体の一員として集会成功のために取り組んでいます

2009年10月に弘前市と弘前大学が共同してまとめあげた報告書を具体化するために、市民懇談会の設置に向けた準備を弘前市が進めています。弥生スキー場跡地には、約5億9千万円もの市民の税金が投入されています。使われた税金がムダ金になるか、それとも未来の市民への私たちからの贈り物になるのか、今、「市民力」が問われています。一度は破壊された自然の回復状況を確認し、今後のありかたを共に考えましょう。

日時 9月29日(木)18:30～20:00

場所 コープ青森和徳店2階ホール

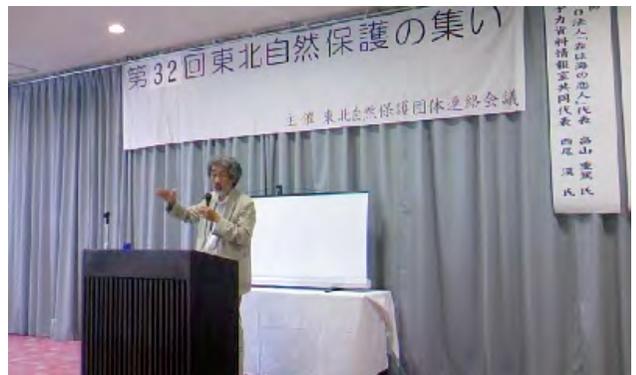
- 内容
1. 弥生ネットの運動到達点と今後の動き報告
 2. 現地の植生の回復状況報告
 3. ハッチョウトンボについての講演
 4. 質疑応答・意見交換

主催 弥生スキー場跡地問題を考える市民ネットワーク 連絡先:080-5229-6076 竹浪宛

「第32回東北自然保護の集い」に参加してきました

9月10～11日、秋田温泉「なごみ」を会場に、「第32回東北自然保護の集い」が開催され、阿部会長と斎藤、竹浪の3名が参加してきました。集いには、東北6県から約50名が参加しました。東北森林管理局からも2名が参加してくださいました。

今年は、「東日本大震災からなにを学ぶか」がメインテーマで、かつてなく真剣で活発な論議となりました。



一日目の冒頭二つの講演がありました。ひとつは NPO 法人「森は海の恋人」代表の畠山重篤氏から、自然の生態系を理解しながら、それを復興につなげていく取り組みを、自分の被災体験と合わせてお話がありました。二つ目は原子力資料情報室の共同代表の一人である西尾漢氏です。西尾氏からは、「福島第一原発事故から何を学ぶか」をテーマに、事故の一連の経過と到達点、汚染の実態、今後の方向性、原発から脱却する運動の見通しについて詳しく述べられました。

講演の後、福島、宮城から報告がありました。例年はブナ枯れやダム問題などが話題になるのですが、今

回ばかりは違いました。福島からは、被災し、原発事故により被爆を受けつつ生活を余儀なくされている方から、「福島第一原子力発電所事故による福島県内の放射能汚染の現状」が生々しく報告されました。報告は次の言葉で結ばれています。「放射性物質の大量放出から半年が経過しようとしている。汚染の実態が明らかになるにつれ、状況はいつそう深刻になりつつある。・・・あらゆる方面の英知を結集し、この難題に取り組まなければ、この国の未来はない。他方、この事故を契機に再生可能エネルギーへシフトする政治、経済社会の利権が垣間見える。・・・新たな脅威が東北の豊かで美しい自然に向かっていく。」宮城からの報告者も被災を受け、家がなくなった方でした。仮設住宅の問題を指摘し、150～200万円の金で後は自分で生きると言われている。しかし一次産業関連の仕事の人が多く、働く場所がない。震災との闘いはこれから始まる。取り組みを進めてくる中で新たな絆が生まれてきた。“生き方を変えなさい”と津波が叫んでいるような気がする。自然から我々が学ぶことが必要。と述べ、大きな拍手に包まれました。

その後交流会で盛り上がり、二日目も、岩手、山形、青森、秋田と報告があり、最後にアピール文を政府や関係行政機関に提出することを確認し終了しました。青森からは阿部会長が、弥生スキー場跡地の自然回復の取り組みの教訓と課題を報告し、来年の集いを青森で引き受けることを宣言してきました。

みなさん、来年は是非、多数の参加で青森の集いを成功させましょう。

竹浪純 記

<石切沢堰堤観察会報告>～「ウォッチング青森」との共催～

2011年5月5日（祝） 10時～12時30分

天気：曇 気温：10度 微風参加者：21名

岩木山百沢スキー場駐車場を起点に、まだ雪渓が残っている石切沢、クルマ長根沢、姥人沢など4つの沢を横断し、砂防堰堤が設置されている現場を見ながらスプリングエフェメラルを楽しみました。

遠くつがる市からの参加もあり、ヘルメット姿、ストック・杖持参、中には直径5センチほどもあるオオイタドリを加工し杖にしている方もあり、多彩ないでたちと装備のにぎやかで楽しい観察会となりました。

砂防堰堤が山肌を削って作られるのは、地域に住んでいる方の土砂災害に対する不安と要望が出されている現実があります。行政はその要望を受けて砂防堰堤を建設しているわけですが、わざわざ土砂災害の危険性がある地域に住宅や公共施設を建設している（許可してきた）問題があります。近くにある小森山の開拓住民は危険な沢筋を避けて集落を作ってきたのです。また、参加者からは、堰堤が作られている沢にどの程度の土石流が発生すると想定したのだろうか、という疑問が出されていました。昭和50年に発生した百沢土石流災害では、石切沢の隣の蔵助沢が氾濫して死者22名という大惨事となりましたが、このとき石切沢の下流域は被害はありませんでした。蔵助沢の土石流災害を大きくしたものは沢を横切って作られたスキー場による樹木の伐採だ、ということで被害者が裁判を起こしていま



石切沢の堰堤

す。堰堤の建設により、建設地点から上流を広く樹木が伐採されていましたが、これこそ土石流の発生を促すことになるのではないかと、との意見も参加者から出されていました。

今後予定されている堰堤を作る予算は、危険とされている下流住民の移転費用に回したほうがいいのではないかと。県に対して、会として意見を述べるべきだとの声も出されました。

参加者にとって強いインパクトを与えた堰堤観察でしたが、一方、春の息吹も大いに味わうこともできました。足の踏み場もないほどのカタクリの紫色の群落。雪のようなキタコブシの白い花。シュンランの群落は1週間ほど早かったもの見応えのあるものでした。総じて例年より1週間から10日ほど遅いなあとのおもひの感想でしたが、それなりに様々な春の訪れを楽しむことができました。

小森山に開拓に入った先人の努力の足跡を見ることができたのも感慨深いものがありました。小森山の裏側に水田を拓き、その水を確保するために人力で掘られた2キロにも渡るであろうと思われる用水路。大変な労力と努力のたまもので、小さな文化遺産とも言えるものです。その用水路を堰堤建設の取り付け道路が横切り、その部分用水路は埋められコンクリートのトンネルで水を流していました。自然を破壊するものは文化も破壊するのですね・・・開拓された水田は、ネコの目農政により放棄され、今はヤナギなどの低木が藪を作りつつあります。開拓集落に残っているのは数世帯になっているようです。こんな地域、こんな日本でいいのだろうか、と思ったのは私だけではないでしょう。

最後に、解説ガイドをしてくださった皆さん、歩きがてら投棄されているゴミを拾い集めてくださったみなさん、そしてこの企画に参加してくださったみなさん、ほんとにお疲れ様でした。 **竹浪純 記**

*** 石切沢堰堤観察会に参加して ***

「スプリングエフェメラルズを楽しみながら、昨年から工事が進められ大規模に里山が伐採されている砂防ダム工事現場の現状を視察し、自然保護と災害の問題を考える」という目的で行われた。春らしい穏やかな天候の下、21名の参加、竹浪事務局長を責任者として行われた。

百沢スキー場駐車場をスタートし、完成した石切沢5号堰堤へ。カタクリの群落が足の踏み場もない程続く。観察会のコースは岩木山麓を斜面づたいに歩いた。目指す建設作業中の第4堰堤が出現した。「会」の方いわく、ひと跨ぎすればいい程の沢に対して、工事用道路を建設し、見上げる程の高さの堰堤を建設中だった。ここは姥人沢という小さな清流である。

「堰堤観察会」に初参加した私にとって、この現場は驚きだった。「会報」を通じて知らされていた事実が現実として迫ってきたのである。言い訳として「住民の安全」を押しても「大規模な自然破壊」は否定できない。

今回の観察地の近くには、既存又は建設中の堰堤等は8基、建設予定が3基となっている。岩木山に、そしてその自然に関心をもつ人ももたない人も、岩木山の「堰堤」を知らない人がほとんどだと思う。この現実を知った者は、まちがった将来に禍根を残す事業だと思うだろう。

このことは、前事務局長三浦章男さんはじめとした方々が取り組んできた「岩木山の堰堤調査活動」の上にある。「会」としても、又他団体ともよく話し合い、今後も継続して取り組みたい。

これ以上、岩木山を傷つけずに後世に手渡したい、これは私たちの責務である。 **藤原裕貴子 記**

何年か前、営業の仕事をしていた頃、嶽温泉へ仕事で行った帰り、百沢スキー場から岩木山を眺めよう

と寄り道をした。途中、確かこのへんに大きな池があったなあと思い左折した。そこから山の中へ続く道があったので、車でトコトコ上がってみた。道は悪くないものの、草木は段々深くなりそろそろ引き返そうと思ったとき、家が一軒見えてきた。昼とはいえ、小雨模様の暗い日で、妙に不気味な雰囲気漂っていた。車を止めて様子を見たが、どこかしら人の気配があり、ホラー映画的状况だったので、とっととUターンした。

今回、観察会に参加してまたあの建物に遭遇するとは思ってもいなかった。びっくりだ。

しかし、工事に造られた広い道の脇で以前とは全く趣が変わってしまった建物には不気味さとは無縁の印象しかなかった。人がもし今もすんでいるならゴメンナサイ。

古くから人間は山の神秘性とか、畏敬の念を持っていたと思う。同時にそれを自らに取り込みたいという願望もあったのではとも思う。神仙思想のようなものだと思うが、今風に言えば、ひきこもり(やや健康的な)願望で、里に住めばなかなかそうもいかない。だから、お山参詣とかが行われるようになった。近代になってから開拓、更にはよりよい住環境を求めた施設の建設と里の論理が必要となってくる。大義名分がつけば、こっちもあっちも必要のないところまで手をつけたくなる。最近の堰堤は形がいろいろ工夫されているようだが、問題は堰堤ばかりではなく、人と山のかかわりについて古い言葉で言えば掟が必要なのではとも思う。そんなことを黙々とあるきながら考えていた。

それにしても、堰堤建設現場脇の岩場から噴き出していた雪解け水。うまそうだった。

当方、少々宿酔気味だったので、、、。

黒滝松太 記

<弥生スキー場跡地生物調査報告>

2011年6月12日(日) 10時～13時30分 参加者：33名

動物は移動性があるから分布が意外な方向から無作為に進むことがあると考えられ、生活環境がたまたま満たされることで、生息するチャンスが植物より多いと考えられる(ハッチョウトンボ・イワキナガチビゴミムシ)そして、その結果が時にはその後の生物相に影響を与えることも考えられ、生物多様性を大きくする原因になりうる。もし、杉などの植林がされていたならば決して見られない生物分布である。

又、植物の分布から裸地に近い(遷移のはじめ)所、ススキ群落、灌木帯、林(コバノハンノキ)まで一ヶ所で同じ時期に遷移の動きを観察出来る点でも、自然観察林として適しているものと思われる。

誰でも出来る観察をすることで、これからも長い年月をかけ、データを積み重ね、岩木山の自然を理解し、多様性の保護活動をしたいものである。

阿部東 記

* 弥生スキー場跡地自然観察会に参加して *

当会の観察会に参加するのは2回目である。何年か前に岩木山二子沼観察会に参加して以来のことだ。この日は曇り空ではあったが、日も出てよい観察日和だった。植物・樹木・昆虫の三班に分かれて、予定通り10時に出発した。私は昆虫班に加わり、阿部会長を先頭に山林へ入った。阿部先生が前もって準備していたトラップを確認しながら進む。私はトンボを主に観察しているので、このようなトラップ採集は初めてのことで興味深いものがあった。地面にプラスチックのコップを埋めたものや、袋状のものを木の枝にぶら下げている。これらの中には昆虫誘導物質が前もって入れてあるので、これにさまざまな昆虫が引き寄せられ

中に入り込んで出られなくなり、それを採集することになる。

今回もコップの中にはゴミムシ、シデムシなど腐肉に集まる昆虫が何頭か入っていた。この他、小型のネズミや、岩木山の上でしか見つからないゴミムシが1頭入っていた。阿部先生はこれらのものをていねいに管ビンに入れ持ち帰った。

山林に入って間もなく、歩道の柵の上に尻尾の白っぽいシオヤトンボのオスが止まっていた。どこかの湿地で発生し、ここに飛んで来たものようだ。植物や花の名前、スキー場中止以降に植林した樹木の生育状態などの解説を聞きながら進む。すると、誰かが木の幹にヤマナメクジを発見した。10cmにもなるかという見事なものだった。誰かが曰く「昔、八甲田の鹿内仙人は、案内した若い女性の前で、このナメクジをおいしそうにつまんで、ペロリと口に入れて見せたんだそうだ。」と。また、灌木の枝にモズのハヤニエも発見された。珍しく、皆で覗いて写真を撮った。

大分進むと谷間の溪流にさしかかった。ここではザリガニや水生昆虫の幼虫探しをした。一所懸命捜して5cm位のザリガニ2頭とオニヤンマの幼虫、またカゲロウやカワゲラの幼虫が見つかった。しかし、ここにいるらしいサナエトンボの幼虫は見つからず残念であった。川を後にして進むと、スキー場の建物があったという場所に出た。裸地面がむき出しになっており、所々にコケが生えて、やがて様々の植物が生えてくる初期の段階であるという解説があった。豊かな山を禿山にするスキー場などはもういらぬ。そう思わずにはいられない。

さらに進むと湿地帯が広がっていた。最初に見たシオヤトンボが飛んでいた。ここで発生していたのだった。まもなく、先に行っていた誰かが「ハッチョウトンボだ。」と叫んだ。

みんな一斉に湿地の中を見渡した。そして次々とハッチョウトンボが発見された。そんなに多くはないが、30頭位はいるだろう。今、ハッチョウトンボは岩木山麓でほとんどいなくなってしまったので、貴重な生息地の発見だった。このまま大事に護っていききたいものだ。ここには青と黒い斑紋のあるオゼイトンボも見られた。



今回見つかったハッチョウトンボ

そこを後にして高台に進む。少し汗ばんできた。両側のイチヤクソウやギンランなど珍しい植物の花が楽しい気持ちにしてくれた。12時過ぎ、出発した地点にみんな無事に帰りついた。お昼の豚汁は格別のおいしさだった。

その後、各班のまとめが披露されたが、何とんでも私にはハッチョウトンボの発見が今日の観察会の大収穫だと思うところである。

奈良岡弘治 記

今回の観察会は、事情があり不参加の予定でしたが、前日になり状況が変わり飛び入りで参加することになりました。当日は天候にも恵まれ、集合場所に集まった人は30余人で、参加者不足を心配した主催者をホッとさせました。

全員揃ったところで主催者代表の挨拶、観察、調査についての注意事項など説明がなされた後、役割分

担を毎木調査班、植物班、生物班の3分野に分け、さらに分野毎に専門家をリーダーとして配置し、参加者は自分で希望する分野に加わり調査班とすることで態勢がととのった。

私は毎木調査班の一員になりました。それは、昨年11月28日に弥生ネットが主催した毎木調査に参加した体験があるからです。毎木調査の作業は、樹木を根本から高さ1m30cmの位置で太さを計測し、記録するものです。昨年は3地点で10本ずつ合計30本に基準木となるように調査番号を目印として縛りつけました。

いよいよ自然探索となり、先頭は毎木調査班、続いて植物班、生物班の順番です。事前調査による踏み跡を辿りそれぞれに観察地点に向かうことになりました。

先頭の毎木調査班は、前年の基準木を探し、計測して記録していく単純作業であり、調査は順調に進行した。調査する中で幹周りが前年より細い木が数本あったことが不思議がられたが、その差は前年の計測方法(細紐で計ったものをメジャーで確認した)と、今回の方法(直接布製メジャーで計る)との違いから生じた誤差ではないかとのことで、特異な現象ではないものとした。このような状況で、毎木調査班は、他の班に先駆けて調査を終了した。

一汗かいた後の昼食は、阿部会長差し入れの、旬の山菜が入った心尽くしの豚汁があり、十分に空腹を満たしてくれた。食後の感想発表においては、各班からそれぞれ観察結果と成果の発表があり、その中で生物班が、ハッチョウトンボのほか貴重な種の生息を確認したことが特に心に残った。一度破壊され尽くしたこの弥生スキー場跡地で、少しずつ回復に向かっていることを体験できたことに感謝したい。

このような企画は、今後も広く市民の方々に体験してもらうこと、継続することを希望する。

土岐修平 記

いつもお世話になっております。昨年に続いて今年も岩木山麓の自然観察会に参加させて頂きました。当日はお天気も恵まれ、参加者も多くとても楽しい観察会でした。私は現在勉強中の山野草のグループに入れてもらい竹谷先生等から色々なことを教えてもらいました。私は途中で見つけた「ハッチョウトンボ」の出現には感動し、びっくりしました。秋田県の方で一度だけ見たことがあったのですが、岩木山麓でも生息していることが分かってちょっとうれしくなりました。それと「ザリガニ」がちゃんと生きていてくれましたね。岩木山もまだまだ捨てたもんじゃありませんよね！昨年は三浦先生が急逝されました。当時私も病気入院でかなりショックを受けました。親しい友人や先輩の方々のお陰でなんとか退院できました。先日の弥生でも三浦先生のお姿は勿論おみえになる訳もなくちょっと淋しい気持ちでした。でも皆でガヤガヤと賑やかに観察会をやっていればどっかで見守っていると思います。「おめだち良く来てけだなあ、これからも皆仲良く頼むじゃ」と云っていると思います。これを続けていくことが何より三浦先生の供養にもなることだと私は信じています。

話はちょっと変わって今年の三月十一日の東日本大震災のことです。早々と今年の十大ニュースのトップが決まったみたいなのです。いまだ行方の分からない人々が数千人とか、福島原発事故も深刻でいまだ予断を許さない状況のようです。こんな時にのんびり山歩き等遊んでいても良いのかと自身葛藤もありました。今でもまだそう思っています。逆に通常の生活をできるようならいつも通り続けていくことも大切なのかなと思うようになりました。日本は地震国である。台風列島である。いつ何時災害に遭うか分かりません。

日本中原発だらけでどこにいても絶対安心な所はないのですから。もし、又そんな大災害に出会ったら、それも運命だと思っています。だから、これからも自然観察を歩けるうちは大いに楽しみたいと願っております。今後も皆様のご指導を宜しくお願いします。

葛西義夫 記

<岩木山山頂付近の自然観察会報告>

2011年7月3日(日) 10時~14

時30分 参加者: 20名

岩木山山頂付近の観察会は、会では初めてと思う。今回は陸奥小桜に出会いに8合目ターミナル出発、登山道を鳥の海噴火口に向かう。この間は、雪解けが始まると咲く、ミツバオウレン、ミヤマカタバミ等は花が終わりを告げ、夏の花に移行、ミヤマトウキ、イブキセリモドキの蕾が大きく膨らんでいた。鳥の海噴火口岩峰に咲く花も太陽を浴びて来春への準備。陸奥小桜に最初に会える場所ですが花が終わっていた。初めて出会ったのは鳳鳴ヒュッテに到る前の、雪解け



の遅れている窪みのところで3株程、又ウコンウツギを見ることができた。種蒔苗代に向かう急な斜面で陸奥小桜の群落に出会い、数多くの中に一株の白花陸奥小桜が咲き、元気と感動をいただく。種蒔苗代で昼食をとり、後、鳥海山に向かう行動を中止し、8合目に下る。皆さん元気で観察会を終え、岩木山に感動をいただき後にする。

竹谷清光 記

* 岩木山山頂付近自然観察会に参加して *

今回ミチノクコザクラを撮影したかったので参加させてもらいました。集合した時は岩木山の上部は霧があり、先行きも不安でしたが、スカイラインを登って行くと次第に見通しが良くなりました。

ターミナル横には思ったより小さなアオモリドマツが1本だけあり、赤いテープを巻かれていてこの先心許なく感じました。

リフトの横を登って行くと、ハクサンチドリ、オトギリソウ、ズダヤクシユ等草や木や生物の説明を聞きました。種蒔苗代への下り坂でびっくりしました。5年位前降雪時の撮影にはこんなに急でなかったはずでした。年と共に下り坂を苦手を感じるのでしょうか。でも、ここら辺りが今回のハイライトでした。ミチノクコザクラが左右に可憐に咲いていてその中に白い花を咲かせているのも教えてもらいました。霧も流れていて雰囲気も良かったです。小生はアウトドア派なので今後も色んな機会に参加したいと思います。

中山康司 記

【 寄 稿 】

岩木山を考える会 ～これまでとこれから～

武尾 照子

1994年4月3日「岩木山を考える会」は設立されました。弥生スキー場開発計画が発端となり、「故郷の山をこれ以上傷つけない、貴重な動植物が棲み、幾筋もの水脈をもつ豊かな自然をこのまま次の世代に残したい」と願う仲間が集まりました。

発足当初は、行政が推進する開発を止めることが当面の目標でしたので、異議意見書や公開質問状、請願書などの提出・街頭での署名運動・直接利害関係のある方々との懇談などなど、会の活動の主体は反対運動にならざるを得ませんでした。

しかし、ほとんどの会員は、岩木山に親しみをもち、山懐で癒され、楽しんできただけで、そのような運動には疎遠の集団でした。そこで、反対運動を進めるかたわら、より多くの人に岩木山の良さや自然環境を守ることの大切さを感じ取ってもらいたいと、観察会や写真展も企画しました。これら企画はその後、毎年継続され、写真展は今年1月に第17回目を迎えました。この会を「守る会」ではなく「考える会」と名づけたのは、会の趣意書にもあるように、「私たちやそして子孫にとっても本当に大事なことは何なのか、そしてそれを守るために何をしたらよいか、みんなで考えよう」という気持ちからでした。

弥生スキー場、そしてその後の岳スキー場の建設計画が中止になった後も、岩木山には様々な災難が降りかかってきました。鯨ヶ沢スキー場の建設と拡張工事(スキー場の開発は尺取虫のように広がっていくことを知りました)・ゴミの不法投棄・冬季山頂付近へのスノーモービル乗入れ・沢に累々と連なる堰堤。

この当時は、阿部会長と三浦前事務局長が中心に、岩木山に関わるあらゆる事柄(湯段ミズバショウ沼整備・鳥海山のコマクサ問題・弥生跡地問題など)について、行政や関係諸機関に働きかけ、粘り強く交渉を重ね、考える会の意図するところを伝える努力をされていました。

今年、考える会は新しい役員を迎え、会員の皆さんとの繋がりをより緊密にし、会の活動にもできるだけ多くの方に関わっていただき、一緒に考えて行動しようという方針で再スタートしたところです。

今、春の福島原発事故をきっかけに自然エネルギーへのシフトが加速され、岩木山を取り巻く環境にもその影響が及ぶでしょう。すでに、傷ついている岩木山ですが、やっぱり「いいお山」です。自然の再生力にちょっとだけ力を貸して、その恩恵をたっぷり受け取ろうというのは虫の良い話でしょうか？

* 岩木山の自然をめぐる情報 *

さて、幹事会では毎回最近自分が目にした、或いは耳にした岩木山に関する情報を出し合い、情報を共有しているのですが、皆さんにもこの場で、少しお知らせしたいと思います。

アオモリトドマツ：今のところ岩木山に1本しか発見されておらず、保護の必要性を訴えています。今は元気に葉を広げていますが、枝折れ 2 箇所見つかっています。これは周りの木に押されていることが原因と考えられ、津軽森林管理署に対策を求めています。森林管理署としても現場

を見た上で検討したいとのことでした。

コマクサ：岩木山に本来生えていないコマクサが発見されている問題で、岩木山の生態系を守るため、県は2007年以降、コマクサの抜き取り作業を行っています。今年も6月に県自然保護課からのコマクサの現状に関する問い合わせを受け、7月16日に阿部会長、斉藤幹事の2名で該当する場所の調査を行いました。その結果、微少な種苗が5カ所で見つかり、県自然保護課に連絡しました。自然保護課は、9月9日抜き取り作業を行いました。

会員の皆さんへお願い

 岩木山に関する情報やこういう事を会員皆と共有したいと言った希望がありましたら、事務局までご一報下さい。会報は会員の皆さんの交流の場です。また、寄稿なども大歓迎です。

 「岩木山を考える会」の会員継続手続きをお願いします。会費納入は4月会報に同封した振替用紙でお支払い頂くか、最寄りの幹事までお届け下さい。

♥ 新幹事あいさつ

故郷を離れて22年目の数年前、60歳の定年退職を機に地元弘前に帰ってきました。

仙台・東京と勤務しながらその間、何度か帰省中にも登った岩木山は若い頃から好きな懐かしい山です。この度、縁がありこの岩木山を中心に活動している「岩木山を考える会」の幹事に就任しました花田です。この様な大役が果たして自分に務まるのか？自問自答しながら悩んでいましたが、何度か幹事会に出席している内に、好きな山野草や山の観察会が開催され、自然体で向かえば何とかついていけるかなと思っています。

会の諸行事、諸先輩の補助が何とかこなせる様、微力ながら努力したいと思いますのでよろしくお願い致します。

尚、自分のインターネット簡単ブログを開設しています。岩木山や八甲田連邦に登った山行記録や山野草、高山植物などが掲載されていますので、環境が整っている方で興味のある方は覗いて見てください。「ydpcb263のブログ」で検索するとご覧いただけます。 花田一雄 記

<編集後記>

こしばらく幹事会をサボっています。ごめんなさい。最近家の前に自力で井戸を掘り始めました。岩木山の伏流水を使って風呂と洗濯と食器洗いの水を確保しようと目論んでおります。一号井戸は打ち抜き井戸で石に当たってしまい4mまででストップ。残念ながら一号は水量が少ないため二号井戸を掘りぬき井戸にして只今2.7mまで掘りました。なかなか大変な作業です。 小倉慎吾 記

会報「岩木山を考える」第55号（2011年9月16日発行）発行 / 岩木山を考える会 / 会長 阿部 東 〒036-8336 青森県弘前市栄町4-12-2 / 電話 0172-36-4205 事務局長 竹浪 純 / 電話 080-5229-6076 郵便振込口座番号 02380-0-37914 振込先: 岩木山を考える会
